

令和 8 年 3 月 1 1 日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立油面小学校
校長 衣非 まさ子

令和 7 年度 目黒区立油面小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 実施日時 令和 8 年 1 月 1 7 日 (土) 1 3 時 0 0 分～1 4 時 3 0 分

- ・授業参観 (午前中)
- ・四者評価の結果報告
- ・学校評価についての協議

2 参加者

校長：衣非 まさ子 副校長：吉田 真紀子
学校評議員： 4 名

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者※による学校評価アンケートの結果分析 ◎ (成果)、● (課題)、 ⦿ (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎「学校での様子は楽しそうである」についての保護者の肯定的評価の割合は、91.5%で昨年度より 5.6 ポイント上昇した。昨年度と比べ、各学級が落ち着き、安心して学校生活を送る児童が増えたためと考えられる。 ●児童の「学校は楽しい」の肯定的評価の割合は、低学年が 88.0%、高学年が 90.6%と低高学年とも昨年度より上昇したものの、低学年が 9 割を切ったことは	引き続き、教職員が明るく楽しく児童と関わり、児童の気持ちに寄り添い信頼関係を築くことを基本とする。さらに、学年を基本とした指導・支援体制のもと、各学年にエデュケーションアシスタントスタッフもしくは副担任として専科教員を配置する。このことにより、児童の多様性を受け止めながら、一人ひとりの児童のよさや可能性を多面的・多角的に見取り、個に応じた適切な対応ができるようにするとともに、「いつでも誰	年間を通してどのクラスも落ち着いてきたように感じる。 学校評価の肯定的割合が昨年度より高くなったことは大いに評価できる。100 周年を迎えて、教員、児童、保護者が一体にまとまった感がある。

	課題と受け止めている。学級の雰囲気、友達関係、学習の理解等、様々な理由により、学校が楽しくないと感じている低学年児童が一定数いることが要因と考えられる。	にでも相談しやすい環境づくり」につなげていく。 保護者や地域の方に対しては、引き続き丁寧に誠実に接することを心がけていく。	
Ⅱ 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎保護者の肯定的評価の割合は 89.8%であり、昨年度より 4.6 ポイント上昇した。「誰一人とり残さない」という指導の重点が別室登校支援という形で具現化されたことが一因ではないかと捉えている。	引き続き、「一人一人のよさを生かす」「誰一人とり残さない」「目標に向かって、努力を続ける」プロセスを大切にする」という学校経営の基本方針を継続し、「誰一人とり残さない」を学校経営の土台に置く。	教育目標が標語のように明確化され、学校としての方針がぶれないように続けていくことが大切である。 児童を褒めてよくしていくことが理想である。
Ⅲ 心の教育について ・道徳科（道徳）の授業の充実や児童・生徒の道徳的实践力の向上に向けた取組について	◎保護者、児童とも 8 割以上の高い評価を得た。特に児童の評価が 95%以上と高い。年間を通してのいじめ防止の取組や指導により、命や思いやり、いじめは許されないことについての意識が児童の中に浸透していえるといえる。	道徳科の授業の充実に努めるとともに、年間を通して、全教育活動の中で「親切、思いやり」「生命の尊さ」「相互理解」等について指導する。 また、一部に相手の心を傷つける言動がみられることも事実であり、一層道徳的实践力の向上を図っていく。	道徳の授業は大切だということを伝え、児童にとって考えるための授業であるとよい。 学校公開では、学年で同じ授業ではなく、学級の実態に合わせて違う題材を選んでもよい。 100 周年という特別な空気感の中で、地域の一員として自分がかけがえのない人間だと感じられることがよい。 たくさんのことを学ぶ中で、成長して大人になった時にそのことを思い出しながら自分の自信となるとよい。

Ⅳ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について	◎保護者の肯定的評価の割合は、80.1%と昨年度の 73.0%から大きく上昇した。また、児童への「学校の勉強は分かりますか」の問いについても、低高学年児童とも肯定的評価の割合は約 90%であり、昨年度よりも上昇した。特に低学年児童については、昨年度に比べ 10%近い上昇が見られた。交換授業や学習指導講師を活用したチーム・ティーチング、一部教科担任制等により、授業内容の充実が図られたためと考えている。	①「児童が自ら問いをもち、すすんで学習できるようにする」「ユニバーサルデザインの視点に基づいた分かりやすい授業展開」に努めることを全教員が実践できるようにする。 ②交換授業や（一部）教科担任制を取り入れ、授業内容の充実を図る。 ③算数科において、第1・2学年では学習指導講師や学校教育支援員を活用したチーム・ティーチング、第3学年以上は加配教員を活用した習熟度別指導を充実させる。 ④児童が単元内自由進度学習等において、学びの見通しをもち、自分に合った学びの方法や学習形態などを選択し、自己の学習を振り返ることを通して自己調整する力を伸ばす。 ⑤学習用情報端末、デジタル教科書、大型提示装置等の ICT 機器・デジタル教材と、紙の教材やノート等をバランスよく効果的に活用し、学習への関心・意欲を高めるとともに、主体的に学ぶ力や相互に学び合う力を養う。 ⑤校内研究・校内研修・OJT ペアによる授業づくりの充実を通して、学習指導力の向上を図る。	児童の評価が高まっているのがよい。 教員の評価も高いが、児童の肯定的評価に満足してしまうのは危険である。教員間でよい授業を見せ合うなどして、授業をよりよくする努力をさらに続けてほしい。
---	--	---	--

V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎保護者の肯定的評価の割合は、90.4%であった。低学年児童の肯定的評価の割合も 92.3%と高かった。昨年度、78.7%と 80%を下回った高学年児童の肯定的評価の割合も今年度は 83.3%と上昇した。 その背景として ① 5・6 年生は、今年度より体育科の加配教員が配置されたため、質の高い運動の時間が確保されたこと ② 休み時間の過ごし方として「晴れているときは、学習用情報端末は使わない」というきまりを明確にしたため、校庭遊びの活性化につながったこと ③ 体育委員会が開校 100 周年の取組として「100 チャレンジ」と題した様々な運動を企画したこと が考えられる。	引き続き、外遊びを推進するとともに、体育的行事委員会が中心となり、なわとびやマラソンなどの全校的な取組の充実に努め、運動の日常化及び体力の向上を目指す。 また、校内研修等を活用して、体育科の加配教員の専門性を生かした体育指導が他の教員にも波及するようにする。	今年度の取組を次年度も継続してほしい。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて	◎保護者の肯定的評価の割合は、95.6%で昨年度より約 9 ポイント上昇した。低学年児童は昨年度とほぼ同じで 94.8%、高学年児童は 98.0%で昨年度より約 6 ポイント上昇した。 今年度は、開校 100 周年に関わる様々な行事や取組（開校 100 周年記念運動会、開校 100	・週時程を変更し、なの花タイムの回数を増やすことにより、児童集会、たてわり班活動等の一層の工夫と充実を図るとともに、わかたけ学級との交流を促進する。 ・児童が自らの考えを表現したり話し合ったりすることができる機会を設け、学校のルールづくりや行事の企画・運営に	100 周年ということは、年間通しての雰囲気と合い、児童の喜びとなった。特別感のある一年間だった。 異学年交流の授業がもっとあってもよいのではないかな。

	周年記念児童集会、開校 100 周年記念式典、開校 100 周年記念フェスタ、各委員会による 100 周年の取組など）が行われ、児童主体の取組を推進したことが要因と考えられる。	主体的に関わることができるようにする。	
Ⅶ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎「子どもたちは落ち着いて学校生活を送っている」の保護者の肯定的評価の割合は、80.1%で昨年度より 9 ポイント上昇した。教職員についても肯定的評価の割合は 82.8%で昨年度より約 22 ポイント上昇した。 学年を単位とした指導・支援体制、副担任制。交換授業・教科担任制等により、複数の目で児童を見守ることができ、児童の安全・安心につながったと考えられる。 しかしながら、保護者、教職員とも約 20%は否定的評価であったことから、生活規律の徹底やいじめにつながる事案、登校が難しい児童などの対応が不十分との指摘と捉え、真摯に受け止めたい。	・学習規律、生活規律を徹底させ、誰もが安心・安全な学校生活を送ることができるようにする。 ・生活指導夕会等を通して、児童理解を深めるとともに、児童についての情報共有やいじめの未然防止、早期発見・対応等に努める。 ・年間を通して「挨拶・返事」「温かい言葉を広めること」「時間を守ること」「身の回りを整えること」に重点をおいて指導する。 ・引き続き、校内に別室登校を希望する児童のための居場所「ぼかぼかルーム」を設置し、学習指導講師や別室担当支援員を常駐させる。また、担任・保護者と連携しながら、不登校あるいは不登校傾向のある個々の児童に対する最善の手だてを講じる。	あいさつをする取組は継続しているが、今の子どもは顔見知りでないで返事をしない傾向もある。道端で声を掛けると躊躇したり走って行ってしまうこともある。大人があいさつを続けていくことが大切。 子どもは大人の姿を見て育っている。大人がよい姿を見せていくことが大切。

<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎防災教育、安全教育に対する肯定的評価の割合は、保護者、児童とも90%以上と高かった。様々な想定避難訓練の実施や、防犯教育プログラム（1年）、地域安全マップ作り（3年）などの取組が高い肯定的評価につながったと考えられる。	・危機管理マニュアル及び学校防災マニュアル改定版を全教職員で共通理解し、対応の徹底を図る。 ・毎月の安全指導においては、生活指導部が全校児童に向けて当該月の指導内容を知らせる時間を設定する。さらに各学年がNHK for School等を活用し、学年の発達段階や実態に合った指導を行うことで、安全指導の一層の充実を図る。	地域の避難所運営訓練など学校と連携しながら防災対策を進めていく必要がある。
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	●小・中連携については、保護者の肯定的評価の割合が77.2%で昨年度より若干上昇したものの伸び悩んでいる。設問に具体的な取組を記載したが、その内容が保護者によく伝わっていないことが要因と考えられる。	・小・中連携育成プログラムに基づいて、中学校との児童・生徒交流や教員同士の情報共有の場を設ける。 ・近隣の保育園の年長児を招き、1年生との交流会を実施する。	中学校が2つ（大島中、目黒中央中）あるため、連携が難しそうであるが、校区としての連携は今後も進めてほしい。
Ⅷ 情報の発信について ・学校の情報発信の充実について	◎保護者の肯定的評価の割合は88.0%で昨年度より10ポイント以上上昇した。学校ホームページやHome&Schoolでの情報発信が評価されたと考えられる。	引き続き、学校ホームページの学校日記の更新やHome&Schoolでの適時適切な情報発信に努めるとともに、学校だよりの内容を充実させていく。	学級だよりや学年だよりで教員の人柄が伝わる。保護者や児童との距離感や信頼関係をはぐくむことにつながるので、大切にしてほしい。

IX 教員の人材育成について ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎教職員の肯定的評価の割合は、100%であった。教員が協働性の高さや校内研修の充実を実感しているものと認識している。	・ 校内研究、学習指導研修会、若手教員研修会、OJT バディを生かした授業づくりの充実を図る。 ・ 職員室内の風通しを良くし、若手教員が相談しやすい風土を醸成する。	マナーやルールを教えるだけでなくコミュニケーションの仕方を教えていくことが重要となる。そのような教員を育てていく。
X 教員の働き方改革について ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎教職員の肯定的評価の割合は、82.8%であり、昨年度より約4ポイント上昇した。会議の資料等のデータ共有や C4th での連絡が定着したことが一因と考えられる。	・ 引き続き、業務内容や校務分掌の見直し・改善及び組織力の向上を図る。 ・ 可能な限り、週1回はノー会議デーを設け、教職員が放課後の時間を主体的かつ有効に活用できるようにする。	働き方改革やプライバシーの保護の問題から、教員と児童の関係も昔から変化してきている。
XI 服務事故の防止について ・ 服務事故防止に向けた取組などについて	◎教職員の肯定的評価の割合は、100%であった。服務事故防止研修等により、個人情報情報の取扱いや不適切な指導についての意識が高まっている。	教職員同士が互いにアンテナを高く張り、服務事故を起こさない職場環境を維持していく。	掲示物に注意を払っていると聞いている。服務事故に直につながることはないが、教室内の掲示についてのきまりはどうなっているのか、確認してほしい。